

小学四年

国語

解答と解説

問四		
る	力	地
の	球	
方	上	
向	に	
に	は	
伸	重	
び	力	
る	が	
と	あ	
い	り	
う	、	
性	根	
質	に	
が	は	
あ	重	

問一
A
光
を
避
け
る

問八
イ
問九
工
問十
ウ

問七
叶
希
ち
（完答）
氣
づ
け

問六
A
い
つ
も
胸
を

問三

問一

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

96

97

98

99

100

101

102

103

104

105

106

107

108

109

110

111

112

113

114

115

116

117

118

119

120

121

122

123

124

125

126

127

128

129

130

131

132

133

134

135

136

137

138

139

140

141

142

143

144

145

146

147

148

149

150

151

152

153

154

155

156

157

158

159

160

161

162

163

164

165

166

167

168

169

170

171

172

173

174

175

176

177

178

179

180

181

182

183

184

185

186

187

188

189

190

191

192

193

194

195

196

197

198

199

200

201

202

203

204

205

206

207

208

209

210

211

212

213

214

215

216

217

218

219

220

221

222

223

224

225

226

227

228

229

230

231

232

233

234

235

236

237

238

239

240

241

242

243

244

245

246

247

248

249

250

251

252

253

254

255

256

257

258

259

260

261

262

263

264

265

266

267

268

269

270

271

272

273

274

275

276

277

278

279

280

281

282

283

284

285

286

287

288

289

290

291

292

293

294

295

296

297

5	4	3	問八	問五
⑥ 衣服 62	① 食料 57	① ウ 52 ② ア 53 ③ イ 54 ④ ウ 55 ⑤ イ 56	① 主語 ア 述語 工 主語 工 述語 イ	問八 ⑨ イ ⑩ ア ⑪ イ ⑫ ア 問九 ⑬ ア 問十 ウ 問十一 才
⑦ 愛着 63	② 付録 58	② ア 53 ③ イ 54 ④ ウ 55 ⑤ イ 56	② 主語 工 述語 イ	問五 11 14 問六 イ 問七 A ウ B ア
⑧ 去 64	③ 旗色 59	③ 工 55 ④ イ 56	③ 主語 工 述語 ウ	40 41 42 43 44 45 46
⑨ 急 65	④ 金貨 60	④ 才 56	④ 金貨 48 ⑤ 倉庫 49	(未答) (未答) (未答) (未答)
⑩ 好 66	⑤ 倉庫 61			

(配点)
 〔1〕〔問三・四〕各3点、他各5点
 〔2〕〔問四〕8点、他各5点
 〔3〕〔問五〕各2点
 } 計150点

1 **解説**
工藤純子の『サイコーの通知表』（講談社）から出題しました。

登場人物たちの表情や行動から気持ちを読みとりましょう。

問一 **B1** 関係づけ 比較

会話文の穴埋めです。それが誰のセリフかを考え、受け答えが成立するように埋めていきましょう。その際、地の文（小説や物語におけるセリフ以外の部分）も参考になるので、そこもきちんと読みます。ウに「大河は…」とあるので、これは「ぼく」のセリフです。①の後に「首をかしげた」と「ぼく」が疑問に思っていることが示されていますから、ここに疑問文であるウが入ります。ウの「買つてもらつてないの？」をうける大河のセリフは、買つてもらえなかつた理由を言つている工です。クリスマスに買つてもらえなかつたということを受けて「ぼく」は「じゃあ、お年玉で…」と答えたと考えられますから、③にはイがあてはまります。④は「不機嫌に」答える大河のセリフですから、アの「お年玉も減らされて、足りなかつた」があてはまります。

です。ですから、答えはウです。エ「さげすみ」の部分が言い過ぎの表現です。

問三 **B1** 関係づけ 比較

⑥の直前に、「大河の笑いも止まつた」「いつも強気な叶希ちゃんが、今にも泣きそうな顔をしていた」とあるので、「ぼく」が意外な展開にどうしていいかわからなくなつていてることがわかります。ですから、ここには、ウ「おろおろ」があります。「ひやひや」は「よくないことが起きるのではなくいかと気が氣でないさま」を表す言葉です。ここは、どうしようと動搖している気持ちが強いので、ウの方が適当だといえます。⑬の前に「腹減つた」：なんて言い出さないかとあります。また大河がデリカシーのないことを言うのではないか、と気が氣でないのでしょうか。ですからこちらに力の「ひやひや」が入ります。

問四 **B1** 関係づけ 比較

あまりのしつこさに：シャツを⑦引つ張つた」とあるので、シャツを引っ張るときにつかう言葉、かつそれがしつこく叶希ちゃんにからむ大河に注意をうながすようなしぐさであることとから、ここにはウ「つんつと」があてはまります。それまで饒舌にしゃべっていた叶希ちゃんの⑫に続くセリフは、「通知表…」の一言だけです。ですから、ここにはキ「ぼくつんと」が入ります。

問二 **B1** 具体化 比較

大河の叶希ちゃんに対する態度を「デリカシーのかけらもない」と言っています。妹とただごとではないような別れ方をした後の叶希ちゃんは「元気がなさそう」だったのに、大河はずげずげとケンカしていたことをからかうような口ぶりで話しかけています。「デリカシー」とは纖細さ、気配り、感受性の細やかさのことです。ですから、デリカシーがないとは、配慮や心配りができない、他人の気持ちに無神経である、という意味

問五 **B1** 具体化 比較

叶希ちゃんはそのあといきなり泣き出していることから、「に

らんだ」というのは怒りの気持ちからというより、はりつめていた気持ちが「にら（む）」という表情にあらわれたのだと考えられます。ですから答えはエです。ア「『ぼく』や大河がおもしろがつてからんでくる」、イ「心配をかけてしまっていることを申し訳なく」の部分が不適切です。ウ「きびしく注意しよう」とありますから、この後で叶希ちゃんが大河に注意するような表現はありませんから、エの方が適切といえるでしょう。

問六 **B1 理由 関係づけ**

直後の二文を読みましょう。そこには「叶希ちゃんの大きな目から、涙がぽろつとこぼれ落ちたからだ。いつも胸を張つて、はきはきして、強気な叶希ちゃんが」とあります。「いつも胸を張つて、はきはきして、強気な叶希ちゃんが」泣いた、といふことが意外だったのです。このことから、リード文にあうよう言葉を抜き出しましよう。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問七 **B1 理由 関係づけ**

直後に「『ぼくだつて、ふつーだし！』叶希ちゃんを元気づけたくて、ぼくも勇気を出して告白した」とあります。大河も、泣いてしまった叶希ちゃんを「元気づけたくて」、「自分のダメっぷりをぶちまけ」たのでしよう。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問八 **B1 具体化 比較**

ひじでおす、ひじでつつく、のは、言葉を使わずに、肘で相手に触れることでなんらかの行動をうながすときです。大河のあいづちは、叶希ちゃんのまじめさをからかうようなもので、叶希ちゃんがしんけんな悩みをうちあけているこの場の空気に合いません。それを注意するために、大河を「ひじで押した」のだと考えられます。ア「からかつてばかり」、「いらっしゃ」などの表現が強すぎます。ウ「素直にほめる大河のまっすぐさ」、エ「嫉妬している」は本文から読みとれません。

問九 **B1 具体化 比較**

——線⑯直前で、大河は弟の葵くんが「努力家」なのに「生まれつき苦手」なことがあることで、低く評価されることに憤っています。そして、直後で、どれほど葵くんが日々努力を重ねているかを説明しています。大河は葵くんの努力をわかつてもらいたい気持ちが強いことがわかります。ですから、答えはエです。ア「いかに学校の先生が子どもの努力に無関心かを伝えたい」とありますが、大河は「子どもの」というより、「葵くんの」努力を伝えたいのです。また、「無関心」という言葉も不適切です。イ「ぼく」の発言にたいして、「大河は気にせず」という表現が——線⑯の八行前にあるので、不適切です。ウ「参考にしてもらいたい」とは読み取れません。

問十 **B1 具体化 比較**

「通知表は、どんな理由があつても、甘くはならない」ということに対して、「それは、平等つていうことなのか」「納得いかない」と「ぼく」は感じています。生まれつき差がある中で

もがんばっている、穂香ちゃんや葵くんの通知表が「甘くはないでしょ
う。そのことについて書かれているのは、ウです。アは「ぼく」
の考えに近いものです。イ「すぐにあきらめて」、「がんばる子
だけを評価」の部分が不適切です。エ「しかつてばかり」とは
書かれていません。

【2】田中修『植物のいのち』（中央公論新社）から出題しました。

【9】段落までは、「なぜ、根は下に向かつて伸びるのか」とい
う疑問に対し、「水を求めて伸びているから」と言われてこな
かつた理由について、根が水を求める下に向かつて伸び
る二つの性質をあげて説明しています。そして【10】段落から

【14】段落では、「根が水を求めて下に向かつて伸びていく」と
言える三つの根拠が示されます。そして、【15】段落からは、
水を求めて伸びる根の力、「根性」という語にふさわしい根の
たくましさについて具体例をあげながら説明されています。

問一 B1 具体化 関係づけ

【3】段落は「一つは」でじまり、【5】段落は「もう一つ
は」でじまっています。「二つの性質」についてここで説明
していることがわかります。そして、「ですから」でじまる【6】
段落が「二つの性質」についてのまとめの段落です。そこには
「根は、光を感じ、それを避けるように伸び、また、重力を感じ、
その方向に伸びる」とあります。「光を感じ、それを避けるよ
うに」「重力を感じ、その方向に」と同じ意味になる言葉をそ
れぞれ決められた字数で探せばよいでしょう。

問二 B1 関係づけ 比較

文を接続する言葉は、前後の文の関係をよく確認して入れま
しょう。【2】の前には、「根には光を避ける方向に伸びる性
質があ」とあり、後で「光のない真っ暗な中でも、根は下へ
伸びます」とあるので、ここには適接もしくは、「そして」の
ような並列を示す接続語が入ります。【3】の前では根が真っ
暗な中でも下に伸びることが書かれています。後では「根が下
へ伸びるのは、光を避ける方向に伸びるという性質だけによる
わけでは」ないと言っています。光があるうとなかろうと、下
に伸びるのだから、「光を避ける方向に伸びる」という性質だけ
によるわけでは「ない」というわけです。ですからここには順接
の接続語「ですから」があてはまるので、答えはイです。

問三 B1 理由 比較

——線④の直前に「たとえば」とあり、——線④は、「根は、
重力を感じ、その方向に伸びる」ことを確かめるための実験だ
とわかります。つまり真っ暗な中ににおいてもなお、根が下に伸
びたのであれば、下に伸びるのは「光を避ける方向に伸びる」
からだけではない、と言えます。ですから、答えはウです。イ：
エは根が下に伸びるということに触れられていません。ア「重
力がなければ根は下に伸びない」ということは、重力がない環
境でなければ確認できません。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とし
ます。

問四

B2 理由 関係づけ

——線⑤の直前に「そのため」とあります。——線⑤の理由は、その直前に書かれていることがわかります。ただし、——線⑤の直前の文は「ですから」ではじまっていますので、——線⑤前の二文が理由です。このような場合は「～ので、～から」の形でこの二文をつなげるとうまくいきます。リード文を参考にすると、答えるのは「～ので」にあたるところですから、「ところが：性質があります」の文をリード文にあてはまるように書き直せばよいでしょう。「①地球上には重力があり、②根には重力の方向に伸びるという性質がある（ので）」というように書けばうまくながります。そもそも地球上に重力があるの

で、重力の影響をぬきに「水を求めて伸びる」ということを証明することが難しかったのですから、「地球上には重力があり」という前半部分の言葉は必要です。

※設問の指示や字数・文字指定に従つていらないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点3点とします。

問五

B1 具体化 比較

——線⑥がある文を見ると「その根拠は、主に、次の三つに整理できます」とあります。読み進めると、[1]、[2]、[3]段落はそれぞれ「二つ目は」「二つ目は」「三つ目は」で始まつていて、[15]段落は「このように」でまとめに入っていることがわかります。よって、根拠が書かれているのは[1]～[14]段落だと言えます。

問六

B1 具体化 比較

「宇宙ステーションの中では、重力ははたらいていません」というところがポイントです。[14]段落に「地球上では、重力があるために見えにくい『根は、水を求めて伸びる』という性質が、無重力の宇宙ではっきりと示された」とあります。ですから、答えはイです。アは実験のことにふれられていました。ウ「下に向かって」とありますが、その方向に向かって伸びたのは「水を含んだロックウールが置かれて」いたからです。エ「重力を感じない個体」については、二つ目の根拠で示されていたものです。

問七

B1 具体化 比較

「この力」は、「同じ種類の植物が湿った土で育った場合と、乾燥した土で育った場合の根の成長を比較すると、よくわかる力です。乾燥した土で育った植物の根の方が、「水を求めてたくましく伸びる」のです。「この」とあるので、直前の[15]段落を読みます。そこにも「この力」とあり、その直前の文に「根には、水を求めて伸びる力が備わっている」とあることから、「この力」とは根の水を求めて伸びる力、だとうことがわかります。ア「植物」のウ「長く根を伸ばす」力、でもよさそうですが、「水を求めて」ということが含まれていないので、「最も適当な言葉」ではないといえます。

問八

B1 関係づけ 比較

空欄の直前に「ところが、根の成長はそう（湿った土で育つたほうが乾燥した土の場合よりも、植物の成長ははるかに上まわる）ではありません」とあります。ですから、根の成長につ

いては、乾燥した土で育ったほうが、湿った土で育った場合よりも、はるかに上まる、ということです。そのことを頭にいれて、アカイを選んでいきましょう。

問九

B1

具体化 比較

「根性」とは「いろいろな困難や苦労にくじけない性質」のことです。【18】段落には、根が「水が少なく不足している」という逆境の中で…きめ細かく深くに張りめぐらせる」ところが、「根性」を感じさせるような伸び方だとあります。水を求めて伸びる根のことに触れられているのはアです。イは植物の話になっています。ウ「水を求めて」に関する言葉が入っています。エは植物の話になっていますし、「けなげ」という言葉も「根性」とは意味が少しずれています。

問十

B2

抽象化 比較

正誤問題です。選択肢をていねいに読み、本文との違いを探しましよう。ア「水を得るためではなく」、イ「根を土中に深く伸ばすことができない」、エ「容易に枯れない」、オ「由来になつてている」の部分がそれぞれ誤りです。

問十一

B1

関係づけ 比較

脱文挿入の問題では、つなぎことばも注目するポイントです。この場合、「そのため」です。「根は、水を求めて下に伸びないのか」という疑問」が出てくる理由となる文を探します。すると【工】の直前の「根が下に伸びなければならないのは…水を吸収することも大切な目的なのです。」という文を見つけることができるでしょう。

3

A2

知識 比較

主語と述語の問題です。まず述語から探し、それをしたのはだれか？ それはなにか？ というように考えると主語をとらえやすくなります。

- 述語は「行きました」です。「行く」のはだれかと考えると、「わたしも」が主語になります。
- 述語は「咲いていた」です。「咲いていた」のは何かと考えると、「チユーリップが」だとわかります。
- 述語は「図鑑です」です。なにが図鑑なのかと考えると、(父が買ってくれた)「本は」が主語だとわかります。
- 述語は「走っています」です。だれが走っているのか考えると、「わたしは」が主語だとわかります。
- 倒置文(文が通常の語順ではない文)です。通常の語順に直すと、「ぼくの／弟が／コンクールで／優勝したよ」です。述語は「優勝したよ」です。だれが優勝したのか、と考えると「弟が」が主語になることがわかります。

4

A1

知識 比較

ことわざや慣用句の問題です。意味も一緒にしつかり覚えておきましょう。

- 馬の耳に念佛：いくら注意されても少しもそれを聞き入れようとしない様子。いくら言つても効き目のないことのたとえ。
- ぬれ手であわ：ぬれた手で穀物の粟をつかむとたくさんつかめることから、苦労しないでたくさん儲けることのたとえ。
- 身から出たさび：自分がした悪いおこないのために、あとで自分で苦しむことのたとえ。

- ④ 二階から目薬…二階から下にいる人に目薬をさしてやるよう、非常にまわりくどいことのたとえ。また全く効果のないことのたとえ。
- ⑤ かえるの面に水…何を言われてもされても平氣でいることのたとえ。